

# サステナビリティボンド / サステナビリティボンド・プログラム

## 外部レビューフォーム

### セクション 1. 基本情報

発行体名:	株式会社ダイワテック
サステナビリティボンド又はフレームワークの名称:	株式会社ダイワテック 第 30 回無担保社債 (株式会社愛知銀行保証付および適格機関投資家限定)
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020 年 12 月 25 日
レビュー公表日:	2020 年 12 月 25 日

### セクション 2. レビューの概要

#### レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則との適合性を確認した。:

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング          |

#### 外部レビュー者の役割

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                    |
| <input type="checkbox"/> 検証        | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:      |  |

注: 複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

## レビューのサマリー 及び 評価レポート全文への URL リンク

株式会社ダイワテックは、ソーラーシステムハウスをはじめとする太陽光や風力の発電・蓄電システム開発、設計、施工、メンテナンス、建築物の施工を事業内容とする会社である。1982年2月に有限会社 大和商工として設立後、2001年7月に株式会社ダイワテックに改称し、現在に至る。設立当初は建設資材に関する事業を営み、2011年の東日本大震災を契機とし、ソーラーシステムハウスおよび関連商品の開発・販売を開始した。2020年12月現在、北は北海道から南は沖縄まで10ヶ所の営業所・出張所を展開しており、国内全域における対応が可能となっている。

ダイワテックは環境および社会問題への貢献そのものが事業の目的であるとの認識のもと、シンプル・エコロジー・テクノロジーの観点で自社の技術を活用し、環境・人・社会に貢献する姿勢を有している。ダイワテックは東日本大震災において燃料・電力・交通網・通信手段等が長期間にわたって途絶したことを受け、そうした問題点を克服し、真に災害現場で活用できる製品の開発に着手した。ダイワテックは災害時における課題に加え、非常時のみならず日常的に使用できること、さらには環境に配慮した製品であることを重視し、製品開発および事業活動を行っている。

今回評価対象となる私募債（本私募債）の資金使途はレンタル用のソーラーシステムハウスの製造資金に対する新規投資である。資金使途となるプロジェクトによる年間CO<sub>2</sub>排出削減量は約25t-CO<sub>2</sub>/年と見込まれており、再生可能エネルギーの活用による環境改善効果がある。加えて、災害発生時で電力供給が途絶している状況等においては、自然災害の罹災者、乳幼児、高齢者、傷病者、妊婦等の弱者グループに対する電力供給という必要不可欠なサービスの提供により社会的便益の実現に資するものである。同プロジェクトの実施にあたっては、製造時の廃棄物や騒音をはじめとする環境および社会的リスクを適切に特定し、必要に応じた回避・緩和策が講じられている。以上より、JCRは本私募債の資金使途について、環境改善効果および社会的便益を有するものであると評価している。

本私募債による調達資金の資金使途選定にあたっては、経理部長による適格性基準についての評価および選定ののち、代表取締役社長を筆頭に構成される役員会における分析・検討を経て機関決定されており、経営陣が適切に関与している。また、資金調達形態および事業規模等を考慮すると、内部統制に関する体制は妥当なものであり、資金管理体制は適切に構築されているとともに、投資家に対する透明性を有するものであると考えられる。さらに、ダイワテックは環境改善効果および社会的便益にかかる年に1回のレポートを予定しており、開示項目についても適切なものとなっている。以上より、JCRは本私募債について、管理運営体制が確立されており、透明性も高いと評価している。

以上より、本私募債について、JCR サステナビリティファイナンス評価手法に基づき「グリーン・ソーシャル性評価（資金使途）」を“gs1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とした。この結果、「JCR サステナビリティボンド評価」を“SU1”とした。本私募債は、「グリーンボンド原則」、「ソーシャルボンド原則」、「サステナビリティボンド・ガイドライン」および「グリーンボンドガイドライン」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文への URL リンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

## セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

### 1. 資金使途

#### 本項目に係るコメント欄:

- ・資金使途の100%がレンタル用のソーラーシステムハウスの製造資金に対する新規投資であり、環境改善効果および社会的便益を有する。
- ・本私募債の資金使途の対象となるプロジェクトについて、環境・社会的リスクを適切に特定し、必要に応じた回避・緩和策が講じられている。

### GBP における資金使途の分類:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー  | <input type="checkbox"/> エネルギー効率                |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理  | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全   | <input type="checkbox"/> クリーン輸送                 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応               |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス  | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング             |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において GBP 分類に該当することが予想される、または、まだ GBP 分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他                    |

GBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

### SBP における資金使途の分類:

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ整備  | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス            |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅  | <input type="checkbox"/> 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる潜在的効果を通じた雇用創出 |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障  | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント                       |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において SBP 分類に該当することが予想される、または、まだ SBP 分類に含まれていないが適格ソーシャルプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他                                    |

SBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

## 2. プロジェクトの評価と選定プロセス

### 本項目に係るコメント欄:

ダイワテックにおいては、明確に各組織の役割が分担されており、かつ意思決定のプロセスに専門的な知見を有する部署および経営陣が関与する。これより、JCR はダイワテックの選定基準および選定プロセスは適切であると評価している。

### 評価と選定

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている                     | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている      |
| <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴う ESG リスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている                           | <input type="checkbox"/> その他  |

### 責任及びアカウンタビリティに係る情報

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他                           |   |

## 3. 調達資金の管理

### 本項目に係るコメント欄:

- a. 本私募債による調達資金は、15 件のレンタル用のソーラーシステムハウスの製造資金への新規投資に対して調達同月中に全額充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。
- b. 本私募債による調達資金は専用口座によって管理され、他の金銭から分別されて管理される。対象プロジェクトおよび資金決済については、事前の計画と実際の充当のそれぞれにおいて部門長や社長といった経営陣による承認が行われる。対象プロジェクトおよび充当された資金については個別に台帳や社内システムによって管理されており、追跡管理が可能な体制が整備されている。
- c. 資金調達の管理に関する文書等については本私募債の償還およびそれ以降の十分な期間にわたって保存される体制が整備されている。
- d. 本私募債で調達した資金の管理については定期的に顧問税理士による監査が行われる。
- e. 本私募債による調達資金は対象プロジェクトに全額充当されるまでの間、現金または現金等価物にて管理される。未充当資金の管理・運用方法については本私募債発行時の社債要項等で投資家に開示される予定である。

JCR はダイワテックの資金管理について、資金調達形態および事業規模等を考慮すると、内部統制に関する体制は妥当なものであると判断している。加えて、資金の充当計画が適切に策定されており調達資金が対象プロジェクトに確実に充当されること、追跡管理が適切に実施されること、未充当資金の運用についても特段の懸念がないことを踏まえ、資金管理体制は適切に構築されていると評価している。

### 調達資金の追跡管理:

- |  |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> サステナビリティボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。                         |
| <input type="checkbox"/> その他   |

## 追加開示事項:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別の支出に充当   | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示  | <input type="checkbox"/> その他              |

## 4. レポーティング

### 本項目に係るコメント欄:

#### a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ダイワテックは本私募債による調達資金の充当状況について、投資家に対して年次で開示するとともに、ウェブサイトにおいても概要を開示する予定である。また、対象プロジェクトに変動が生じ、未充当資金が発生した場合も同様にその内容を開示する予定である。

#### b. 環境改善効果および社会的便益およびにかかるレポーティング

ダイワテックはサステナビリティファイナンス・フレームワークにおいて、環境改善効果および社会的便益にかかるレポーティング項目として年に一度、環境改善効果および社会的便益にかかる指標をウェブサイト上で開示することを予定している。レポーティング内容は環境改善効果および社会的便益のいずれについてもアウトプット・アウトカム・インパクトの観点から具体的かつ定量的なデータを含むものとなっている。

### 資金使途のレポーティング:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ               | <input type="checkbox"/> その他:               |

### レポーティング情報:

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当金額 | <input type="checkbox"/> 総投資額に占めるサステナビリティボンドによる資金充当の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他:            |  |

#### 頻度:

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他:            |                                |

### インパクトレポーティング:

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ               | <input type="checkbox"/> その他                |

#### 頻度:

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他             |                                |

## レポート情報（理論値または実績値）：

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量 /削減量 | <input checked="" type="checkbox"/> 電力使用量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用量                    | <input checked="" type="checkbox"/> 受益者数  |
| <input type="checkbox"/> 対象となる人口                 | <input checked="" type="checkbox"/> その他   |
- ・適格プロジェクトとして製造されたソーラーシステムハウスの棟数
  - ・災害拠点として利用する場合における利用可能な拠点数 等

## 開示方法

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表          | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表          |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）刊行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他:ホームページにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> レポートの外部レビュー         |  |

## 有用なリンク

株式会社ダイワテック Web サイト	<a href="https://www.daiwatech.info/">https://www.daiwatech.info/</a>
JCR のサステナビリティファイナンス評価手法	<a href="https://www.jcr.co.jp/greenfinance/">https://www.jcr.co.jp/greenfinance/</a>

## 外部レビューを受けた場合、その種類

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                    |
| <input type="checkbox"/> 検証         | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他        |  |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020 年 12 月 25 日

## ABOUT ROLE(S) OF REVIEW PROVIDERS AS DEFINED BY THE GBP AND THE SBP

**1. Second Party Opinion:** An institution with sustainability expertise that is independent from the issuer may provide a Second Party Opinion. The institution should be independent from the issuer's adviser for its Sustainability Bond framework, or appropriate procedures such as information barriers will have been implemented within the institution to ensure the independence of the Second Party Opinion.

It normally entails an assessment of the alignment with the Principles. In particular, it can include an assessment of the issuer's overarching objectives, strategy, policy, and/or processes relating to sustainability and an evaluation of the environmental and social features of the type of Projects intended for the Use of Proceeds.

**2. Verification:** An issuer can obtain independent verification against a designated set of criteria, typically pertaining to business processes and/or sustainability criteria. Verification may focus on alignment with internal or external standards or claims made by the issuer. Also, evaluation of the environmentally or socially sustainable features of underlying assets may be termed verification and may reference external criteria. Assurance or attestation regarding an issuer's internal tracking method for use of proceeds, allocation of funds from Sustainability Bond proceeds, statement of environmental or social impact or alignment of reporting with the Principles may also be termed verification.

**3. Certification:** An issuer can have its Sustainability Bond or associated Sustainability Bond framework or Use of Proceeds certified against a recognised external sustainability standard or label. A standard or label defines specific criteria, and alignment with such criteria is normally tested by qualified, accredited third parties, which may verify consistency with the certification criteria.

**4. Green, Social and Sustainability Bond Scoring/Rating:** An issuer can have its Sustainability Bond, associated Sustainability Bond framework or a key feature such as Use of Proceeds evaluated or assessed by qualified third parties, such as specialised research providers or rating agencies, according to an established scoring/rating methodology. The output may include a focus on environmental and/or social performance data, process relative to the Principles, or another benchmark, such as a 2-degree climate change scenario. Such scoring/rating is distinct from credit ratings, which may nonetheless reflect material sustainability risks.